

口腔乾燥の客観的評価法の開発

山本 一彦

Kazuhiko Yamamoto

口腔外科学／非常勤医員

臨床

■**キーワード** 口腔乾燥、唾液分泌、舌乳頭、口腔粘膜、シェーグレン症候群

シーズ概要

本邦において口腔乾燥を訴える患者は 2000 万人に達すると推察されている。口腔乾燥は直接生命を脅かすことはないが患者の QOL を著しく低下させる。口腔乾燥を訴える患者において健全な口腔機能を維持するためにはその程度を客観的に評価し適切な口腔管理を行う必要がある。しかし、口腔内は呼吸、会話、食事などにより絶えずその環境が変化するため、口腔乾燥の程度を客観的に評価することは困難である。一般に、口腔乾燥の評価には全唾液分泌量の測定が行われている。われわれは、健常者における各種全唾液分泌量の分布と相関、さらに年齢、性別、体格との関係を明らかにするとともに、長期にわたる口腔乾燥が舌乳頭の萎縮と相関することを見いだした。今後、小唾液腺からの分泌量、舌乳頭や他の口腔粘膜の変化、食塊形成能などから口腔乾燥の程度を客観的に評価することにより適切な口腔管理に役立てていきたい。

研究成果の応用可能性

口腔乾燥の程度とその影響を客観的に評価することにより、唾液分泌促進薬、保湿剤ならびに口腔ケアなどの介入効果の評価へと応用できる。

Appeal Point

アピールポイント

口腔乾燥の程度とその影響を客観的に評価することにより患者の QOL の改善につなげていきたい。

関連文献／特許

- 1.Yamamoto K, et al: Whole saliva flow rate and body profile in healthy young adults. Arch Oral Biol 54: 464-469, 2009.
- 2.Yamamoto K, et al: Atrophic change of tongue papilla in 44 patients with Sjogren's syndrome. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 107: 801-805, 2009.
- 3.Yamamoto K, et al: Association of candy weight loss rate and whole saliva flow rates. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 112: e10-e14, 2011.
- 4.Yamamoto K, et al: Stimulated saliva swallowing test under gum chewing: correlation with gum test and Saxon test. Oral Science in Japan 2018:11-13, 2018.